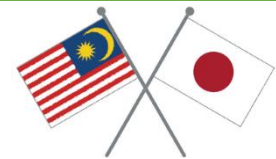


SSHマレーシア海外研修

令和7年7月19日から7月26日にかけて、マレーシア海外研修が行われ、79回生6名が参加した。19日は国内移動、20日に成田国際空港からマレーシアへ向かい、21日から本格的に研修が開始された。



7/21 UiTM 訪問 Icity waterpark

研修初日、私たちは UiTM(Universiti Teknologi MARA)を訪問した。オープニングセレモニーの後、日本、一高の紹介や研究発表を英語で行った。

初日ということで、日本語のネイティブではない人を前に緊張していたが、マレー語を教わることや、一緒に折り鶴を作るなどして交流する中で良い時間を過ごせた。また、英語でのプレゼンテーション、質疑応答はとても難しかったが、良い経験になった。

午後には、宿泊先のある首都クアラルンプール近郊の都市であるシャーアラムの Icity waterpark に行ったり、周辺の散策を行った。



7/22 現地高校訪問 工場見学

研修2日目、私たちは現地の高校（SMK Sultan Salahuddin Abdul Aziz Shah）を訪問し、はじめにセレモニーが行われ、中でもブラスバンドのパフォーマンスが印象的だった。楽器だけでなくフラッグのパフォーマンスもあって、暖かく歓迎されていると感じた。プレゼンテーションでは高校生や先生のリアクションが良く、たくさんの質問を受けた。日本の文化についての質問が多く、日本へ興味を持ってくれていることに感激した。次に、10人程度のグループに分かれて会話をしながら空のペットボトルを利用したペン立てと古着を再利用したトートバッグを作った。どちらも本来なら捨てられるものを再利用していて、私たちの研究の「廃棄物を減らす」という目的に近いものを感じた。高校生のなかには日本語が得意で話してくれる生徒もいたため、あまり構えずに楽しく交流できた。



休憩時間には学校の食堂や購買も案内してくれた。マレーシア料理やおにぎり、アイスなども販売されていた。

続いて私たちはパーム油の精油工場を訪れた。ここでは圧搾・遠心分離でパーム原油を得た後、脱色、脱臭、といった工程を経て、普段使われているパーム油になるそうだ。パーム油と聞いてもあまり馴染みがないが、

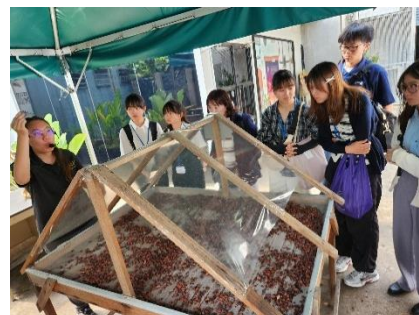
日本でもポテトチップスなどの加工食品に広く使われているようだ。

その後私たちはアートギャラリーを訪問し、大学の美術コレクションを見学した。アニメキャラクターのような絵画から、風景画まで色とりどりの素敵な絵画が飾られていた。また、UiTM の映画・演劇・アニメーション学部の学生が制作したアニメーション作品も見せていただいた。グラフィックがとてもきれいで学生が作ったとは思えないクオリティだった。マレーシアにいつそう親しみを感じた1日だった。

7/23 チョコレート工場訪問

研修3日目は、チョコレートファクトリーを訪れた。ここでは、豆を三日三晩かけて乾燥させたのち、手作業で悪い豆を取り除く選別をするなど手間暇かけた独自の過程を経て製造しており、健康維持にも貢献する良い素材だけを吟味して使用しているそうだ。多数のこだわりが詰まったこのチョコレートの驚きの特徴として、暑くても溶けず、強い衝撃を受けても決して割れないという点も挙げられる。実際、お土産として仙台まで持って帰ってきたチョコレートは、何日も常温で置いていても、変形することは一切なく、とても感動した。見学コース中や見学後のお土産コーナーでは、ほぼ全ての味を試食で楽しむことができた。

次に訪れたマレーシア伝統工芸センターでは、染め物体験でオリジナルバッグ作りを行った。輪ゴムでバッグの一部を縛り、それによって模様がつくという手法を用いている。また、マレーシアの伝統工芸品の展示物も見学した。マレーシア伝統の凧は"ワウ"と呼ばれ、三日月型や鳥型など独特の形と装飾が施されており、マレーシアの硬貨のデザインにも使用されている。



7/24 工場見学

研修4日目。私たちは企業訪問、工場見学を行った。最初に訪問したのはSD Guthrie Internationalという企業だ。この企業はパーム油を使用した油脂製品を手掛けている。始めに会社で働いている方から企業について説明していただいた後、工場見学では普段は公開していないという工場の中核となる部屋に案内してもらい、機械を管理しているコンピュータなどを見せてもらいながら詳しい説明を受けた。英語での専門用語が多かったため私たちには理解が難しい内容だったが、北川教授や廣森助教から日本語での解説をもらい、蒸留のしくみなどについて知ることができた。この研修では工場の概要ももちろんだが、海外でコミュニケーションを取る際の英語の重要性を改めて学ぶことができた。



次の見学先は Emery という、高性能天然由来化学品を製造している会社だった。まず会社の概要や製品について、説明を聞いた。その後工場見学を行い、広い敷地に複雑な構造の建物が多く並んでいる様子を見ることができた。油の加工を行っているためか、工場の周りでは石油特有の独特なおいがしていた。この見学でも難しい単語が飛び交っており完全に理解するのは非常に難しかったが、ゆっくりと繰り返し話してくれ、貴重な見学をすることができた。

7/25 UPM 訪問 クアラルンプール散策

研修5日目私たちは、UPM(Universiti Putra Malaysia)を訪問し、UPMの教授方から大学についての紹介を受けた。研究の分野がとても幅広いだけではなく、実践的な授業を中心に行ったり、留学生共に研究したりするなど、国際的な教養を学べるといった魅力を感じた。キャンパスもとても広く、自然豊かな環境の中で学生たちが研究している様子が印象的だった。

また、マレーシアの伝統的な遊び「チョンカ」を体験した。木のボードに並んだ穴にビー玉のような石を入れて遊ぶゲームで、見た目はシンプルだが、実際にやってみると相手との駆け引きがとても難しく、頭を使う奥深い遊びだと感じた。ゲームを通して現地の学生や教授と交流を深めることができ、とても良い時間を過ごすことができた。研修の中では、ペトロナスツインタワーも訪れた。実際に目の前で見ると、想像していたよりも大きくて美しく、マレーシアのランドマークと言われている理由も納得だ。夜になるとライトアップされていて、すごくきれいで、みんなで沢山写真を撮った。建物のデザインもとてもおしゃれで、モスクのデザインを基調としつつも現代的な雰囲気をタワーから感じられ、圧倒された。歴史的な建物や自然だけでなく、こうした近代的な建物もあるのがマレーシアの大きな魅力の一つだと感じた。



7/26 ピンクモスク訪問

研修最終日私たちは、プトラ・モスク通称ピンク・モスクを訪れた。入り口は、観光客やお祈りに来た人で賑わっていた。入場する際には入り口で渡されたピンクのローブを着用し靴を脱ぐ。一面ピンク色の花崗岩で作られた広場をぬけ、本殿内に入ると下はとても柔らかい感触のピンク色の絨毯が敷き詰められており、観光客とお祈りする人用のスペースで分けられていた。イスラム教を信仰しているマレーシアの人々にとってモスクはとても身近で親しみのある場所だと実感することができた。そして上を見上げると、ドーム型の天井には美しいローズカラーの装飾と青色の窓があり、その美しさに惹きつけられた。日本ではなかなか体感できないイスラム教の文化に触れることができ、自分たちの価値観、視野が広がり、とても有意義な体験になった。



マレーシアの食

主食は米については、マレーシアの米はタイ米と日本米の中間の長さで日本米のもちもちした食感や噛むほどの甘みはあまりなく、パラパラでさっぱりしていた。ナシレマ（ご飯に甘辛いひき肉のタレをかけたもの）やナシゴレン（炒めたご飯にさまざまなおかずを添えたもの）は日本人の口に合いやすいと感じた。味付けは全体的に辛みがあることが多く、常に辛いソースが隣にあった。

また、イスラム教の教えにより豚肉は食べることができない。牛肉は高価であるため、基本的にお肉といったら鶏肉で、たまにラム肉を提供している店も見られた。

そして私たちはいろんな食べ物にチャレンジした。バディの方々にはマレーシアのチャレンジフードを聞いた。まず、代表的なものとしてドリアンをいただいた。匂いがキツく、初めて食べる私たちは悶絶していたが、小原先生や廣森助教など、ドリアン経験者の方々は余裕そうな表情を浮かべていた。現地の方々は、ドリアンを日常的に食べているようだ。私たちも納豆を食べているため、慣れれば美味しく食べれるのかもしれない。他にもカエルや臭豆腐を食べ、とても刺激的で貴重な体験になった。

